



角川武蔵野ミュージアム
Kadokawa Culture Museum

公益財団法人
角川文化振興財団
Kadokawa Culture Promotion Foundation

公益財団法人角川文化振興財団
2024年6月17日

**光のアーティスト、モネの見た景色に没入する体感型デジタルアート劇場第4弾
『モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光』を
角川武蔵野ミュージアムで7月20日より開催
ジャンフランコ・イアヌッツィ氏の完全新作としてワールドプレミア上映**

公益財団法人 角川文化振興財団（所在地：東京都千代田区、理事長：川上量生、以下 角川文化振興財団）は、「ところざわサクラタウン」内、「角川武蔵野ミュージアム」1階のグランドギャラリーにて、巨大映像空間へ没入する360度体感型デジタルアート劇場第4弾「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」を開催いたします。

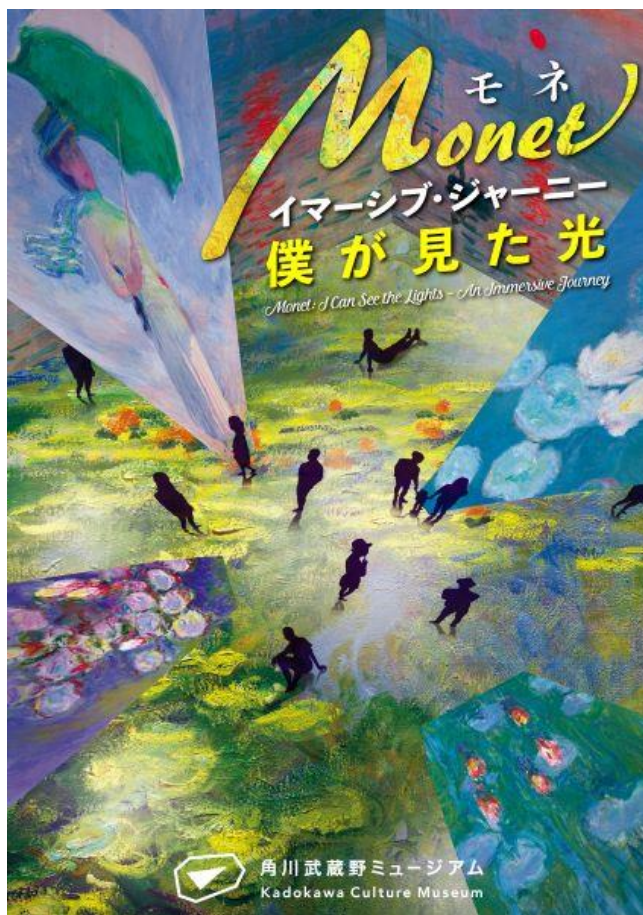
会期は2024年7月20日(土)～2025年1月19日(日)、7月分のチケットは2024年6月18日(火)13時に発売します。

■ 第1回印象派展から150年の節目に、モネの見つめた世界を体感するイマーシブ作品を上映

フランス・パリに生まれ、印象派を代表する画家のひとりであるクロード・モネ（1840-1926）。移ろいゆく景色や時間を、柔らかい色遣いでキャンバスに描きとめ、生涯を通して数多くの作品を残しました。自然を愛し、太陽の筆捌きを敏感に捉えながら制作を続けたモネは、「鳥が歌うように絵を描きたい」と語っています。

本展では、モネが人生で訪れた場所をなぞりながら、モネの見た景色、共に過ごした家族や友人、最後の住処であるジヴェルニーでの生活などを音楽と共に追体験します。映像は、19世紀後半にサロン（官展）を離れ、作品発表の場を求めて仲間と自主開催した1874年のグループ展（印象派展）に出展した作品《印象、日の出》から始まります。この作品を見た批評家が辛辣に揶揄したことから、「印象派」という言葉が生まれたと言われています。印象派が生まれた19世紀のフランスで、モネはどのように生き何を描きたかったのか、画家の網膜にはどんな光が投影されていたのか。光の世界に包まれながらモネの気持ちを追体験してください。

また、映像展示以外にも、モネを学ぶエリアや、モネを楽しむフォトスポットを設置。学びのエリアでは、印象派展の変遷や、モネが描いたテーマ、モネの手がけた「連作」の手法、そして彼が影響を受けたジャポニズムに至るまでを解説します。フォトスポットはジヴェルニーの「睡蓮の池」をイメージ。映像作品と合わせて、モネの描いた世界をお楽しみください。



展覧会キービジュアル

【関連プログラム】

「絵の具づくりワークショップ」

講師：小川美菜子氏（株式会社クサカベ 技術開発部）

印象派の誕生にかかせなかったチューブ絵の具。絵の具の歴史について学びながら、オリジナル絵の具を手作ります。詳細はワークショップのウェブページ（6月18日(火)公開予定）をご覧ください。

■ ジャンフランコ・イアンヌツィと角川武蔵野ミュージアムのタッグで完全新作の体感型デジタルアート劇場を開発

アートと物語を全身で浴びる没入（イマーシブ）体験。角川武蔵野ミュージアムではグランドギャラリーにおいて、1000 m²以上の巨大空間をあますことなく映像と音楽で包み込む「体感型デジタルアート劇場」を開発しました。33 台の高輝度プロジェクターを組み合わせ、すべての壁面と床面をシームレスに繋ぎ合わせた全く新しい映像体験は角川武蔵野ミュージアムならではの、映画とも VR とも違う「共有できる」特別な時間と空間を提供しています。

これまで第 1 弾「浮世絵劇場 from Paris」（2021 年）、第 2 弾「ファン・ゴッホー僕には世界がこう見えるー」（2022 年）、そして第 3 弾として「サルバドール・ダリ — エンドレス・エニグマ 永遠の謎 —」（2023 年）を開催。多くの来場者がアートに包み込まれる没入体験を楽しみました。

これまでの作品は、海外で上映されていた作品を角川武蔵野ミュージアムに合わせてカスタマイズしていたものですが、今回、「ファン・ゴッホ」展、「サルバドール・ダリ」展でクリエイティブディレクターを務めたジャンフランコ氏と角川武蔵野ミュージアムは完全新作として「モネ」展を制作。ワールドプレミア作品として初上映し、日本から世界に向けて発信します。

■ イマーシブアート クリエイティブディレクター Gianfranco Iannuzzi（ジャンフランコ・イアンヌツィ）

デジタルアーティストであり、イマーシブアート展覧会のクリエイティブディレクター。イマーシブアートインスタレーションの先駆者として、35 年以上にわたり世界中で数多くの展覧会を開催し、何百万人もの観客を迎えてきました。

【コメント】

「感情的、音楽的、視覚的であることに加え、イマーシブ（没入）でインタラクティブ（双方向的）な環境を創り出し、デジタルアートを通じて特別な場所を再利用し、再生し、昇華させ、観客を作品の中心に引き込む。そして、その空間の中では観客自身が参加者となる。これが私のアートへのアプローチを要約する方法です」

「80 年代の終わりから、私は新しい技術を取り入れながら、新しいイマーシブインスタレーションを制作し続け、多くの観衆がより感情的にアートを体験できる機会を提供してきました。より多くの人が、このソーシャルな側面も持つ新しいタイプのイマーシブ体験を通じてアートを楽しんでいただけることを願っています」

WEB サイト：<http://www.gianfranco-iannuzzi.com/>



ジャンフランコ・イアンヌツィ

■ モネ展コラボフード、コラボドリンク

展覧会の期間中、角川武蔵野ミュージアム内のメインダイニング「SACULA DINER（サクラダイナー）」と、カフェ「KadoCafe」にて、それぞれコラボフードとコラボドリンクを提供します。

提供期間：2024 年 7 月 20 日(土)～2025 年 1 月 19 日(日)

※一部メニューは期間限定となります。また提供期間が変更となる場合がございます。

● SACULA DINER



「【夏季限定】モネ夏のフレンチパスタ（ブイヤベース風）」

モネが愛したフランスの伝統的料理「ブイヤベース」をアレンジしたパスタ。清涼感のあるペペロンチーノです。

価格：2,000 円（税込）



「睡蓮と橋のベッシュメルバ」

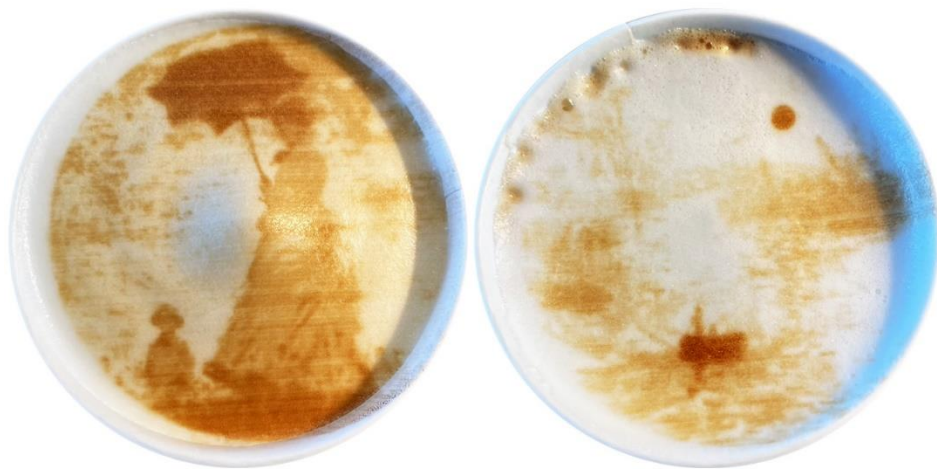
ベッシュメルバとはバニラアイスに桃とフランボワーズ（木苺）とアーモンドを合わせたスイーツ。そちらを『睡蓮の池にかかる橋』に見立てました。アクセントの赤紫蘇のジュレでさっぱりと召し上がれます。

価格：1,200 円（税込）

※フードは、冬季には新メニューを用意いたします。

※予告なくメニュー内容などが変更となる場合がございます。

●KadoCafe



「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光 コラボプリントラテ」

種類：3 種＜散歩、日傘をさす女性（写真左）／印象、日の出（写真右）／ラ・ジャポネーズ＞

価格：各 700 円（税込）

【展覧会概要】

展覧会タイトル：モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光

英語タイトル：Monet: I Can See the Lights – An Immersive Journey

会場：角川武蔵野ミュージアム 1 階 グランドギャラリー

住所：埼玉県所沢市東所沢和田 3-31-3 ところざわサクラタウン内

会期：2024 年 7 月 20 日(土)～2025 年 1 月 19 日(日)

休館日：毎週火曜日（8 月 13 日(火)は臨時開館）

営業時間：10:00～18:00（最終入館は 17:30 まで）

展覧会公式サイト: <https://kadcult.com/event/192>

主催: 角川武蔵野ミュージアム (公益財団法人 角川文化振興財団)

後援: 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランス

協力: 株式会社クサカベ

チケット価格 (税込):

● オンライン購入 (<https://tix.kadcult.com/>)、当日窓口購入

一般 (大学生以上): 2,500 円 / 中高生: 2,000 円 / 小学生: 1,300 円 / 未就学児: 無料

* 休館日、開館時間は変更となる場合があります。最新情報、詳細は公式サイトでご確認ください。

* 展示内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。

■「角川武蔵野ミュージアム」について

図書館、美術館、博物館が融合した文化複合施設。

館長の松岡正剛氏が世界を読み解く 9 つの文脈に沿って独自の配架をした「ブックストリート」、博物学者の荒俣宏氏が監修する「荒俣ワンダー秘宝館」、「本と遊び、本と交わる」をテーマにした「本棚劇場」、これら「エディットタウン」は当館のメインエリアです。本棚劇場では、360 度を取り囲む高さ 8m の巨大本棚にプロジェクションマッピングが映し出されます。

また、マンガや多数の出版社のライトノベルが並ぶ「マンガ・ラノベ図書館」や、企画展が開催される「グランドギャラリー」など、松岡館長が提唱する「想像力とアニメに遊ぶミュージアム」として、様々な「まぜまぜ」を提供します。

建築デザイン監修は隈研吾氏、アート部門ディレクターは神野真吾氏。

公式サイト: <https://kadcult.com/>

X (旧 Twitter): https://x.com/Kadokawa_Museum

Instagram:

https://www.instagram.com/kadokawa_culture_museum

Facebook: <https://www.facebook.com/kadokawaculturemuseum>

一般の方からのお問い合わせ: 0570-017-396 (10:00-18:00)



© 角川武蔵野ミュージアム

■角川文化振興財団について

角川文化振興財団は「わが国の文化の振興に寄与する」という財団の設立目的実現のために、文芸の成果に対する授賞、文芸に関する出版、文芸の研究や著述の刊行への助成、映画芸術振興に関する助成、また文芸・映画資料の収集・保存・展示等、様々な事業を行っております。

公式サイト: <https://www.kadokawa-zaidan.or.jp/>
